

【会議名：令和5年度 第1回 総合教育会議】

会 議 録

日	令和6年2月13日(火)	時間	13:00~14:27	場所	糸魚川市役所 201・202 会議室
件名	(1)教育大綱の改定について (2)総合型地域スポーツクラブの取組について (3)その他				
出席者	【出席者】 17人 市長 米田 徹 教育委員会 教育長 轟本修一 教育委員 谷口一之 齊藤里沙 山本 修 楠 愛 【事務局】 磯野 豊 (教育次長) 嶋田 猛 (こども課長) 室橋淳次 (こども課長補佐) 古川勝哉 (こども教育課長) 小川豊雄 (こども教育課参事) 山本喜八郎 (生涯学習課長) 伊藤伸一 (生涯学習課長補佐) 須澤 和 (生涯学習課スポーツ振興係長) 作本雅之 (生涯学習課主査) 水嶋信一 (生涯学習課職員) 嵐口 守 (文化振興課長)				
	傍聴者定員	10人	傍聴者数	0人	

会議要旨

<p>1 開会 (13:00)</p> <p>2 市長あいさつ ご多用のところ、令和5年度第1回糸魚川市総合教育会議に出席いただき感謝申し上げます。本日の会議は、教育大綱の改定と総合型地域スポーツクラブの取り組みについての2項目である。 教育大綱については、対象期間が今年度で満了となることから改定するものである。また、総合型地域スポーツクラブについては、生涯スポーツ社会の実現に向けて、新たな取り組みとして検討しており、当市の方向性について、ご意見を聞きながらまとめていきたいと考える。 限られた時間ではあるが、多面的なご意見を賜り、充実した会議となることを願います。</p> <p>3 議事 (1)教育大綱の改定について ○事務局 (説明) 当市では、平成28年3月に教育大綱を策定し、その後、平成28年12月に起きた駅北大火を踏まえて、重点項目に防災教育を追加する改定を行い、今日に至っている。 現大綱の対象とする期間が今年度末までとなっていることから、この度改定を行うものであり、改定案については、内容の大きな変更は行わず、現時点で必要となる字句の修正等に</p>

と定める内容としている。

A4横の一覧で、変更する部分をまとめた。大綱案では、変更箇所を黄色で着色しており、あわせてご覧願う。

1 ページ、1、策定の趣旨では、本文について、前回の平成 30 年改定時に駅北大火の発生による改正趣旨等を記載していたが、整理した。

2 ページ下段の「わがいといがわ」の説明、下から 3 行目で、田中統治先生の役職名について現状に合わせて変更する。また、「一人一人」の表記について、現大綱では漢字で「一人一人」と表記していたが、第 3 次総合計画が「一人ひとり」と表記を変更しており、2、4、5 ページで、そのような表記に変更する。

3 ページ、総合計画の「郷土愛にあふれ 夢をかなえる 人づくり」も総合計画に合わせて「人」を漢字表記する。人の表記については、欄外の※印に記載しているが、総合計画からの引用部分と「一人ひとり」は漢字表記に変更するが、それ以外の部分はひらがな表記とする。表記としては、どの表記も間違いではない。

次に、国の教育振興基本計画については、前回改定当時は第 2 期であったが、現在は第 4 期となっており、今回の改定で期別の表記は削除する。

生涯学習推進計画についても、今年度改定作業を行っているところであり、基本理念が「学び、つながり、そして輝く人とまち」に変更となる。

また、下段の関連する計画等で、「文化財保存活用地域計画」を新たに策定していることから追加し、駅北復興まちづくり戦略については、計画期間が令和 4 年度までとなって終了していることから、削除する。

6 ページでは、5、大綱の期間として、令和 6 年度から令和 8 年度までの 3 年間とする。平成 30 年の改定時に総合計画に期間を合わせたところであるが、国通知では、首長任期を意識した想定で 4～5 年程度としていることから、そのように設定する。

○教育委員

基本的に大きな変更がないと聞き、賛成である。特に基本方針の『わがいといがわ』のひとづくり」は、糸魚川を愛して、誇りを持って我が糸魚川と言える人づくりと、糸魚川市に合っている方針だと思うし、これに合わせてキャリアフェスティバルも行われて来たとし、各課でいろんな事業が行われてきて、これをそのまま継続していくということは、とても良いことだと思うし、キャリアフェスティバルも拡充されていって良い方向に向かっているところなので、これを継続することはとても良いことだと思っている。

○市長

田中統治先生が気づいて「わがいといがわ」と言っていたような気がしているが、本当にこの注釈的に書いてある「わがいといがわ」というのは、はまっている感じがするし、好きなフレーズあるし、これはしばらく続けていくことが大事かなと思っているし、子どもたちにも、また市民にも定着ということが大事だと思っている。そういう意味では、しばらく続けてもらいたい。

○教育長

事務局から、文字表記、言葉の意味の捉え、それから上位計画からの流れという部分を背景的に説明があった。3 ページのところの大綱の位置づけのところをしっかりと受け止めたときに、総合計画が出発点であり、そこに向かっていくという方向の確認が文字表記の中にもつながってきているので、そういった意味からすると、この、人、一人一人が、系統というような

部分で、きちっと整理された形になったと思う。

今まではその辺のまちまちな表記があつて、文章をこれから見るときに、この総合計画に基づいて統一していくことが、私は理にかなっていると思うし、皆さんの思いを、その言葉で表記していくということも、大切なことと受け止めている。

○教育委員

「一人ひとり」の、漢字とひらがなについては、糸魚川市では、三十年以上前の教育委員長さんがよくおっしゃっていたことで、これは意味があつて、個と連帯とか、個と集団とかというのをずっと言ってこられたのは頭にある。整理されたのは良いと思うし、学校で使うときには別にどちらでも間違いではないが、そういう意味があるというので、私も書くときに、こう書くこともあるが、そういう意識するというところもある意味、一人ひとりなんだけど、やはりつながっているとか、集団と連携してとか、そういう意味は込められているので、そういうのを続けていってもらえば良いと思うし、これにこだわる訳ではないが、人づくりの話もそうだし、そういったところは整理されているので、継続して進めていければと思う。

○教育長

教育大綱の見直し改定に合わせてではないが、今年は、3ページの中に位置づけている0歳から18歳までの子ども一貫教育方針に基づく基本計画の見直し改定の年である。その辺の部分でも、社会的な背景、今日的な課題のところを受け止めた基本計画の見直し改定作業があつたと思う。基本的には変わらないと受け止めているが、担当事務局から基本的な部分についての位置づけを説明いただくと非常にありがたい。

○事務局

子ども一貫教育基本計画については、基本方針については変わらないが、計画の細かい内容について、新型コロナウイルスの感染症の流行に伴って様々なものが制限され、希薄になってしまったことが、ここ数年間もあつたので、それらに基づき、人との関わりや触れ合い、そして自分に自信を持つことの回復を非常に重視した内容に変えている。計画全てにわたり、保護者、地域、園、学校への協力、協働による取り組みを重視するというところ。そして文部科学省や県から様々な新しい計画が出てきているので、それらを反映させたものとして改定をしている。

○教育長

3ページが一番下の、関連する計画等の中に、文化財保存活用地域計画が大綱の中の資料として明示されたことの意義、これを皆さんと一緒に確認したいと私は思っている。これが入ることによって、関連する計画等の中に幅が広がってくるというか、文化財については、糸魚川市の場合は宝庫だと私は思っているし、誇れるべき。そして、子どもたちが自信を持って、郷土愛につながっていくことであるが、このような地域計画がどのような形で教育の中に関連してくるか、どんなふうに変化していくかが、これからの進め方によって課題になってくると思う。その計画がこの中に入っていることについては、皆さんと一緒に高く評価したいと私は受けとめる。

○市長

糸魚川の文化は、相馬御風先生が種を蒔いてくれて、他の自治体よりも先駆けていろんなことをやっているし、大きい街ではないが、文化度は非常に高いのではないかと思っている。特にそれを具体的に感じたのは、ジオパーク活動で、学芸員の数は、糸魚川は力をずっと昔から入れてきた。他の市町村、他の自治体では学芸員を一人雇うのに大変な苦労されている。糸魚川で学芸員を雇うと言っても、すんなり受け入れてくれている。それは議会もそうだが、不自

然に思わない点が糸魚川の文化度ではないかと思っている。他の市町村では一人を雇うのに苦
勞し、ふるさと応援隊のような組織を使ってやっているようなところが結構見受けられるの
で、文化の根付いている自治体でよかったと思っている。

文化というものは、その地域にとってなくてはならないものになっていくということを自覚
していくことを、また活動の中で、これは今回の教育大綱の中ではなくて、市民ももう1回、
再確認というところを、無理してやらなくても良いけども、そのチャンスがあったら、そうい
うこともしてもらえば良いと思っている。このように目にすることもそのことになっていくと
思う。

○教育長

文化振興課長、その背景があったら説明願う。

○嵐口課長

確かに糸魚川市の文化を考えると、ヒスイができた。その古代から縄文時代が第2フェーズ、
第3フェーズは相馬御風が光を当てた再発見であった。県石になって第4フェーズということ
だが、そういった流れができていの中で、統一した考え方をまとめて計画にすることがなかつ
たかもしれない。このおかげで、県内初で策定したことをきっかけに動き出してみると、皆さ
んの文化に対する需要も高まってきているような気がする。いろんところでこの地元の文化
的な行動とかに光を当ててほしいということもあるので、国からの計画策定指示にいち早く乗
って、考え方をまとめたのが良かったと思う。教育活動、また学習活動にアンケートをしなが
ら使っていけるという思いはあるので、いろいろ取り組んでいきたいと思う。

○教育委員

7年前に糸魚川に移住して来たが、そのときの印象と「わがいといがわ」の言葉がつながる
ので、感想だが、移住してきた当初に一番多く言われたことは、何で糸魚川なんかに来たの
という言葉がかけられた。我が糸魚川に来てくれてありがとう、糸魚川いいところでしょう
という言葉は5%ぐらいだった。95%ぐらいは、なんでこんなところに来たのと言われた。ただ、
住んでいると、でもここの人は糸魚川が好きなんだろうと、だんだん知っていくと感じてきた。
「わがいといがわのひとつづくり」で言っているが、思っていたとしてもそれを声に出して言っ
ている人はどのぐらいいるんだろうと思ひ、わがいといがわと言える人づくりというのが、心
の中で思うだけでなく、当たり前糸魚川はいいところだと言ひ合える人たちに育っていくの
が素敵だと感じる。なんでこんなところに来たのという人は、何もないしと、ないところに目
を向けた話だと思うが、先ほどの文化財保存活用の点で言えば、これは糸魚川あるものに目を
向けたもので、子どもたちを育てるときにも、子どもたちの悪いところじゃなくて良いところ
みましようと言っているのだから、これはまさに、あるもの良いもの見ましようと言っている計画
になっている。そういった点でも、すごく素敵だと感じるころだ。自分が率先して言ってい
きたいと思うので、大人が言っていくことで、できるのではないのかなと感じる。

○市長

本当にそうだ。口を開けば、糸魚川に何にもないとか、あまりいいところじゃないと言うけ
れども、どこか根底に持っている。いいところに自分が住んでいて、これは誇れるものだとい
うものを持っていて、なかなか言葉に出さない部分があるが、その辺をジオパーク活動の中
でも出たが、愛着と誇りを持つこと、そしてその価値をみんな知ろうという形だと思う。それ
をまたこの教育大綱の中で位置づけて、さらにブラッシュアップしていけば良いという気がす
る。

○教育委員

5 ページの重点推進項目の中の糸魚川ジオ学、防災教育、キャリア教育、特別支援教育の推進と書いてあるが、今の話にも関連して、やっぱりジオパークの学習で小学校、中学校の資料等も作って進めている。ぜひ進めて、充実させていきたいと思い、今の糸魚川、素晴らしい自然があるということ、プラス防災の面で言うと、自然が豊かということは危険性も当然あるわけで、それに合わせて、この前の地震でも、雪の中で起きると大変な部分があるとか、そういった面で学習していくことを、ジオと防災を関連づけたり、あるいは今の地産地消とか給食でもいろんな地域の産品を使ったものやってもらっているの、この地域の特産品とか、そういう面での食育の推進もできる。特別支援教育は今どこでも課題になっているし、この前の、不登校、いじめの問題と直接ではないが、充実させることが中心だと思うので、そこに糸魚川ならではの、糸魚川の地域を学ぶ、その地域の良さとか、防災の面も学習することが大事だと思うので、学校だけの取り組みではないと思うので、地域と連携しながら進めて、充実させて、重点的に進めてもらえればと思う。

○市長

ジオ学という中で、防災教育、また食育などを挙げていただき感謝する。先般、第19回の全国ジオパークの全国研修会を糸魚川市でやった。五十名ぐらいの人が全国から来た。その中で、皆さんが、糸魚川は素晴らしいと言ってくれた。みんな異口同音と言ってきて、その中で取り上げてもらったのは、糸魚川には今、ユネスコ世界ジオパークの中で課題が大きくあり、それは保護保全と教育と地域振興とあるが、やはり保護保全が7割ぐらい占めるが、一番の問題は何かというと、要するに、保護、保全しろと、その糸魚川の一番のヒスイを加工して売っているじゃないかと。販売したりすること自体がジオパークの活動に反するという、ユネスコの精神に反するというので、最初から指摘されている。それで我々が言い続けているのは、ヒスイは糸魚川の文化だと、縄文時代の6500年前から加工してきていると、その文化を行うことは悪いことではないと。鉱脈を見つけて取り尽くしているわけではなく、川に流れ、海に流れたものを拾ってやっている文化だということを、ずっと平行線でやってきている。山陰海岸ジオパークでイエローカードが出たりしているが、糸魚川はグリーンカード。その理由は何かということ、玄武洞という山陰海岸ジオパークの一番メインである柱状節理のところの道路を挟んで反対に宝石店があり、世界の石を売っているわけで、何で宝石売ったらいかんかということ、要するに貧困な国は宝石や鉱物をとって、それを収入にするが、やはり子どもを働かせるために、そこでもって収益を得るために、違法行為が行われている、そういうのを広めてはいけないということで、ユネスコも大きな課題にしている、同じことをやってはいかんということで、糸魚川が指摘を受けている。糸魚川は違うと言ってきている。今回、その研修の中で保護と保全をどうするかをテーマに挙げてやった。全国から聞きに来てくれて、非常に評価してくれたのは、ヒスイの加工業者、販売業者まで、そういった方々も呼んで、その中でその考え方を発表してもらった。全て課題を挙げて、その課題をやはりみんな聞いてもらおうし、業者は、自分たちはこんな考え方で加工しているんだと、それがやはり当初からジオパークの考え方を話をしていたから、保護をするために、我々は保全していくためにやっているのであって、今、たまたま流れてきたやつを使わせてもらっているだけなんだと、ほっといたら海に流れてしまうというようなことを言ってきて、堂々と業者や関係者が発表してくれたら、それが良かったと。これから、自分たちの課題は自分たちで解決するというので、そういったことで、みんな一つ一つの輪の中に入ってやっている。それを我々も学ばないかんということで、自分た

ちの課題は自分たちで解決するし、逃げちゃいかんと。山陰海岸は、そういった洞を挟んであるやつは、もう違うんだということで排除してきた。それは我々のジオパーク活動とは違うんだというようなことで、これは一つの例であるが、やはりみんなその、自分たちがその審査の合わないやつは外して、合うとこだけで取り組んできているのが多いが、そうでなくて糸魚川というのはすごいな、みんなと取り組んだ中でやっているんだということの評価していただいて嬉しかった。それを見ていただいたというのは非常に嬉しくて。いつも会うと、糸魚川はヒスイ大変だよねという言葉を書いてくれるので、逆にプレッシャーをかけられていたが、逆に褒めてもらって、非常にいい大会であった。そのようなことで、我々はスケールメリットを大事にして、何の課題でも全部一緒になってやるんだと。それぐらいの規模で、山陰海岸ジオパークは一府三県の大きいところだ。なかなかああいうことはできないかもしれない。糸魚川は一市一ジオパークなので、みんながすぐに連携とれるので、非常にいいかなと思っている。そんなのがスケールメリットとしてあって、いろんな課題をジオという形で取り組める部分があるので、うまく活用していければありがたい、生かしていけるとありがたいと思っている。

○教育長

4ページの重点推進項目の中にも、先ほど教育委員、米田市長が糸魚川ジオ学に関係してお話されたし、5ページの方の重点推進項目の中にも糸魚川ジオ学、防災教育、食育って入っているが、今回の見直し改定で、文言は変わらないけども、防災教育の捉え方、能登半島地震の直接体験みたいなものも加味した形でブラッシュアップしていくという基本的な構えを、文言の修正はしないけれども、そんな意味合いもたくさんこの中に含まれているということ、皆さんと一緒に共通理解しながら、令和6年度以降の教育活動にしっかりつなげていくことが大事だと私は今感じている。

糸魚川市の教育の重点あたりのところあたりで、もうちょっとこの辺りのところが具体的に各学校の校長先生方とも相談しなければいけないが、今までの避難訓練のあり方等々も、これは地域の課題でもあると思うが、今までの地域で行われている避難訓練のあり方、それから防災教育全般に関する市民レベルも含めて、園・学校のレベルも含めて、ちょっと大きな見直し改善を進めていきながら力を合わせていくという方向を、これから本格的に模索していく時期なのかと私も捉えている。

○教育委員

一点検討してもらいたい点がある。5ページの重点推進項目の一つ目の学力向上で、学力とはという定義づけがされているが、これだと、いわゆる知識、基礎基本だけのように読み取れるが、今、学力は三要素と言われていて、いわゆる知識理解的な基礎基本のものと、その表現力や思考力といったもの、それから学習に対する意欲とか関心、態度みたいなものを含めて学力と国も捉えているので、書きぶりを少し検討していただけないかと思う。

○教育長

この表記だと、限定的な範囲での受け止め方しかできない。例えばだとまだ良いが、この表記だと十分言い足りてないという部分もあるのかもしれない。

○市長

今言われたようなことを視野に入れて、少し改定するようにしたら良いか。

今ほどの教育委員の発言については、事務局で検討をお願いします。

(2)総合型地域スポーツクラブの取組について

○事務局（説明）

総合型地域スポーツクラブについては、生涯学習課で設立に向けて取り組んでいるところだが、これまでいろいろな教室、出前講座、トライアル事業等を行い、当市における現状、課題等が見えてきた。この辺を踏まえ、今後どのような形で地域スポーツクラブを目指していくか、方向性等について説明する。

調査研究を始めて3年経ち、その経過から、現状と課題についてまとめた。それを元に、いかにして糸魚川市で地域スポーツクラブが必要であるのか、目指さなければいけないのかということについて説明する。

そもそも総合型地域スポーツクラブとはどういうものなのかということについては皆さんもよくご存知だと思うので省略するが、簡単に言うと、いつでもどこでも誰でも自分のニーズに応じて、手軽に、やりたいスポーツに取り組むものを、総合型地域スポーツクラブと言っている。

当市の現状について、スポーツを、競技スポーツと生涯スポーツの2つの考え方に分けてみた。競技スポーツというのは、いわゆるオリンピック種目のような競技のスポーツだが、糸魚川市の場合はスポーツ協会を中心に活発に行われている。逆に、生涯スポーツ、いわゆる楽しみながら健康づくりをするとかコミュニティづくりをするというような生涯スポーツについては、市の行政の取り組みが活発に行われているが、実際に地元の方々が主体的に取り組んでいくような、そういうものが欠けているというのが現状である。

もう一つ、国の動向でいくと、厚生労働省がここに書いてあるものを提言したわけだが、誰一人取り残さない健康づくりということを設定してきた。ということは、今ご説明申し上げた通り、やる人だけがやるのではなくて、国民全員が健康になる、誰一人残さないで健康になるということを目指していくというふうにも国も提言している状況から考えていこうと思っている。

その課題について、6点挙げてみた。

1点目は、健康になるための運動が必要な人たちの主体的な参加が少ない。今申し上げた通り、もっと健康になりたいとか、体力をつけたい、筋力をつけたい、そういう方々は活発に活動しているが、少し体力的、健康的に劣る方、もう少し運動した方がいいのではないとか、運動しないとこれから健康が害されるような方々の参加が少ない状況にある。

2点目、フレイル予防や介護予防の運動実践が不足している。市でもフレイル予防教室、介護予防教室を定期的に各地区で行っているが、知識理解のための座学が中心で、運動の分野、実践する分野が不足しているということが挙げられる。

3つ目、気軽に参加できる運動教室が整備されてないということで、前のところとも関係するが、そういうことをもっと手軽に、例えば地区公民館や自治会にもあれば気軽に行けるのという、ニーズがあっても、それらが整備されてないということが挙げられる。

4つ目、多様なニーズに対する運営指導体制が整っていない。地区サロンなどでは、こういう教室や体操教室等も設定されているが、実際にそれを指導する方がいないというか、指導者が欠けていて、なかなか活発になっていかないという部分がある。

次に、軽スポーツ、いわゆる卓球やバドミントンやスポレックなども、健康増進のためのスポーツであるが、これらについては一部のサークル活動がほとんどである。やりたい人たちが有志で集まって、その人たちのグループで行われているのがたくさんあるが、これから始めた

いとか、競技レベルではなく、楽しみレベルでやりたいのに、というような方々が参加できる教室が不足しているし、働き盛り世代とか子育て世代の方々、なかなか時間が取れないけどもやりたいという方々が参加していただけるような環境が整っていないという状態である。

最後、指導者の確保、育成が急務となっている。実際にいろいろな市の関連行事もあるし、スポーツ協会関係行事もあるが、指導者が高齢化している。後進が育っていないこともあり、今後、本当にこの指導者の確保、育成を行っていかないと、どの分野についても発展していかないという状況が考えられると課題を整理した。

続いて2ページ。その課題を解決するためには何が必要かということで、糸魚川市総合型地域スポーツクラブが必要だと考えている。何をするのかを目的のところに書いた。誰でもが、気軽に、自分のニーズに合わせて運動やスポーツができる場をつくり、健康増進、健康寿命延伸、介護予防、地区コミュニティの活性化、青少年の心身の育成、インクルーシブ社会の実現というふうに、それこそ総合型、多種目に及んでいるが、冒頭に申し上げたように、誰でもが気軽にできること、強制されるのではなく、気軽に自分の意思で参加できるような楽しいスポーツクラブ、先ほどの競技スポーツと生涯スポーツの関わりからいくと、生涯スポーツのクラブを目指している。もちろん競技スポーツとも連携しながら進めていくことになるが、中心は健康増進や健康寿命の延伸等を目指していくということである。

次に3項目で、市民の皆さん、子どもたちには、市全体ではと、少し対象を絞って具体的に目的を書いた。その下で、より具体的にもっと幅広い層で方策のところではどんなことをやる、どんな教室を開催していくということで、表にして示した。

3ページ目、どんな形で運営していくか、組織体制について、まず大もとになる運営委員会を組織する。ここには、それぞれの立場、分野から見識のある方、代表の方から入っていただく。例えばスポーツ協会の代表とか、公民館の代表の方とか、スポーツ推進委員の代表の方とか、福祉関係の代表の方とか入っていただき、オープンな計画を立てる。それを生涯学習課が事務局をして、クラブマネージャーがまとめていく。そして指導員やスポーツ推進員、地区の指導者の皆様をお願いをして、下に書いてあるような教室を市民の皆さんに提供していくような形で組織を考えている。

今後のスケジュールで、令和6年度に最終的な設立準備を行う。設立準備・検討委員会を立ち上げて、令和7年3月には正式に設立したいと考えている。令和7年度については正式に設立したものを、より事業を具体化、発展させていき、ゆくゆくは法人化等に向けての検討も始めたいと考えている。令和8年度以降になると思うが、このスポーツクラブとして自主運営、独立ができるような形にしていければと考えている。

最後のページ。来年度の設立時に目指すところであるが、競技スポーツとの連携も考えて、総合型地域スポーツクラブと糸魚川市スポーツ協会を並列で、連携していくという形で考えている。なぜこの形になるかということ、当然のことながら指導者も共通的などところが出てくるし、指導者を確保し、育成するためにも、やはり一緒になってやったほうがどちらも良い形になるので、そういう運営体制で、連携しながら指導者の部分を中心に行っていきたい。中学校の部活動の地域移行も本格的に始まると、そこにもやはり指導者の派遣も必要になるので、ここで対応できればと考えている。そして、ゆくゆくは糸魚川市においても、総合型地域スポーツクラブとスポーツ協会が融合した、一体的な形となって、競技スポーツも生涯スポーツも一緒になって市民の皆様のためのスポーツ健康事業を展開していければということで、令和8年度以降としているので、どこまでになるかわからないが、そこまでできれば良いと考えている。今

のところの構想は以上である。

○教育長

1 ページ目のところに現状と課題、ポイントがしっかり整理されていて内容は非常に理解しやすい。課題の中に、その課題の柱をずっと見ても、どちらかという成人以降の中高年の課題的な部分の内容が非常に多いと思うが、子どもたちの課題のところはどんな課題を捉えているか。子どもたちと言っても発達段階もそれぞれあるが、小中学生、高校生あたりでこのスポーツ関係の健康というところでどんな課題があると捉えているか、背景的に聞きたい。

○事務局

課題の部分に子どもたちが抜けていたが、表や図で見ても、子どもたちのためにというところに、体力や技能の向上を図り、将来のアスリートを養成するというのも目的としてあるし、右側の図を見ていただくと、4番のところに保育園、幼稚園出前教室で、学校も入るが、事業の中に入ってくる。課題も含めて申し上げると、まずは二極化、小さな本当に小さい、未満児ぐらいから二極化が始まっている。運動する子としない子。それが小学校低学年あたりから顕著になってきて、スポーツテスト等の結果を見ても、普段運動している子、しない子で大きな差が出てきている。これは糸魚川市だけでなく、日本全国の課題になっている。そしてそれが進んでいくに従って、中学校になると、運動をする子、しない子に分かれる。部活動を一生懸命にやる子、しない子で、また変わってきているというところが今の全国的な問題で、糸魚川市も同じ傾向にある。もう一つは、一番低年齢の部分でいくと、親子で遊ぶ機会、運動する機会が少なくなっている。特に運動の環境、遊ぶ場所がないとか、いろんな問題もあるが、要するに、遊んで体を動かして体力をつけていくとか、運動能力を身につける経験が不足しているのが現状であるので、調査研究をしながら取り組んでいるのが、保育園や幼稚園に出向いていて、実際に子どもたちと一緒に運動している。コーディネーション運動といって、体の使い方方の教室をやったり、相撲教室や、ボールを投げたり、跳び箱を跳んだり、マットを跳んだり、鉄棒したりというようなものをしているので、そういう中で運動経験を身につけさせたい。それが今後の課程の中でも一緒になって動いてもらえるものになっていくということも、このクラブの中でできればと考えているし、小中学校の出前講座については、実際に小学校のクラブ活動や中学校の体育の授業でも、専門的に不足している部分があって、これも要請が来る。例えば、水泳の指導をちょっと見てくれないかというのがあった。中学校でも柔道の授業をするが、体育の先生は柔道ができなくて、専門の先生がいないので、最初のところだけでも指導に来てくれないかということで、柔道連盟をお願いして指導者の派遣をしたというものもあるので、そういったところでも学校や園、子どもたちのためになっていけると思っており、一番は、これから始まる部活動の地域移行、先生方の働き方改革も含めて学校支援をするためにスポーツ協会や、そのクラブを通して指導者の支援が大きな効果があるのではないかと考えている。

○市長

今の教育長の話もあるが、生涯スポーツというと高齢者向けに聞こえてしまう。しかし、進めているのは糸魚川市総合型地域スポーツクラブという形の中においては、ちょっと違った意味合いに取られるのではないかと。この機会に、子どもにもというのはいくらか位置づけをしてもらいたい。そして、指導者が必要な中で、競技スポーツのスポーツ協会の皆さんは、テクニックは当然だが、青少年の育成も結構力を入れてくれている。指導者としての資質を持っている方が、ほとんどかもしれない。同じ競技スポーツの中においては、指導していくというのは非常に熱心にやっておられることが結構あるので、4ページの黒い矢印みたいに、最終的にはみんな

な一緒だという形の中で、スポーツ協会の皆様方が指導に携わっていただくのが良い。いろんな面で足りないのは、よそから持ってくるとしても、各学校の部活にしても、糸魚川市の規模だとしたら、やっぱりみんな一つの中に収まって、やっていただければありがたい。そういう方向でやってもらえば良い。スポーツに理解のある人が生涯スポーツも競技スポーツも、しっかり見ながらやっていただけるような形になっていくのが良いと思う。

○教育委員

午前中の定例教育委員会の中で、1月26日に中学校部活動の地域移行の取り組みで、種目別ミーティングがあったと報告があった。そのときには、実際に中学校の部活動の地域移行に関わる課題のようなものは話し合われたか。

○事務局

今、それぞれ種目ごとにミーティングを行っており、課題としては、特に移動支援、糸魚川市は谷筋も多く、これから学校の部活動が合同となったときには、集約化しようとする、移動も難しい面もある。そもそも、それぞれの学校単位での課題もあるので、この種目は、この学校であれば部活動でまだもう少しいけるとか、こっちの学校だと喫緊にクラブなり地域での受け皿が必要だというのもあるし、多岐にわたる課題は出てくるので、例えば施設を使っているときに、その管理とか、建物、施設的な整備の動きとか、地域で受け皿になるときの費用面の部分なども課題にはなってくる。

また、子どもたちが、経済的な理由で好きな種目、部活動を選べないと困るので、そういった生活困窮者向けの制度のようなもの。国の方から指示も出ているので、人、金、物という部分で、解決していく課題はこれから出てくると認識している。

○教育委員

部活動でも、人数が必要な野球だとか、サッカーだとか、自分はやりたいんだけど、人数が集まらないのでできないとか、指導する先生も野球をやったことがない人がチームを任せられると、それはつらいことだし、そういうときに地域のスポーツクラブの方が指導して下さったり、合同のチームがあったりすると、その子もできて良いと思う。確かに移動の手段とかも難しい、一番の課題である。

○事務局

全体的な課題については説明したが、種目別ミーティングをやっている意味は、種目による特性の違い、学校による違い、それから、子どもたちの数による違いということで、市として一本化できないところがあり、それぞれ学校と保護者と、それから地域の指導者、受け皿になるところが種目ごとに集まっていたら、これから長い目で見てどうしていったらいいかを話し合うために、種目別でやっている。そのため、野球はこの形、バスケットはこの形と出てくるかもしれないが、それぞれが一番良い形で進めていければということで、種目別で展開しているところである。

○市長

教育委員言われるようなことは遅かれ早かれ、出てきている。これについては、早急に取り組んで、今の地域スポーツクラブの方向性と並行してやらなくてはいけない問題ではないかと思う。一年遅ければ遅れるほど、その子どもたちはチャンスがなくなっていく、かわいそうだなと思うし、やりたいものがやれないというのはかわいそうで、どこかでどういう形でもあれ、やりたいことをやっていけるということは、取り組んでいきたいと思う。

○教育委員

今お話あったように、子どもたちは毎年毎年変わって進級していくので、これからやる子どもたちにとって、どういう環境でできるか、できるところはやってもらいたいし、出られなかったり、やりたいことができなかったり、そういう子がなくなるようにするのが一番だと思う。

もう一つの指導者の問題で、これから学校から離れて地域に向かっていくが、今もいろんな競技スポーツで、一生懸命やってくくださる方、働きながらやってくくださる方もいるし、退職された方もいるが、理解ある企業や、あるいは公務員でも、教員の場合は兼務申請すれば、教員と部活の指導もできるが、そういった制度が、例えば郵便局では、全国的に郵便局の職員にそういう資格を取らせて、地域に貢献するというの出しているし、今はなかなか厳しい時代だが、例えば何曜日と何曜日は、この職員は何時から学校での指導を許可するとか、優遇をとってやるとか、あるいは公務員の中でももっと認められれば良いとは思う。そうしていかないと、これから学校から離れて全部地域に任すとなると、なかなか大変だと思うので、本当に市全体挙げて、企業とか皆さんに働きかけてもらって、本当に市全体、国全体の問題でもあると思うが、子どもたちがやりたいこととか、そういう場を狭めてしまう。

小さい頃はいろんなスポーツができれば一番良いことだし、小さい頃にそういう経験があることは、将来高齢者になっても体のためには生きてくる。そのためには大事なことなので、指導者の部分と、機会を何とかしてもらえればと思う。

○市長

スポーツの良さは、技を磨く、そして競技スポーツの中で進めていく中においては自分一人のできるわけではなくて、指導者の方々がいろいろ指導してくれて成り立っていくということをちゃんと自分で見つけていて、自分がそういう立場になると、また後継者を指導してくれているという、そういった流れを持っているので、今回の糸魚川市の総合型地域スポーツクラブの人材育成にも貢献していただけたらと思う。今、人材不足で財源不足のときに、やはりそういったところを、いみじくもこの方向性の中で、ある程度関係者が集まって協議する場というのが大事と言われて、それを種目ごとでもいいし、どういう形でもいいが、そういう場を作っていて、例えば、民間からも応援してもらおうというのを、今言われたように、保険会社が何かそういうスポーツに力を添えるようなところは頼っていいと思うし、またそういう新たな、関わってもらいながらもやれるような形をつくるような、今回はそういったことを進め、地域スポーツクラブの方向性の中で、ちょっと今の事業とはずれても一緒になってやっていくことが、将来の、一番最後のページのトータルで全部一体となっていくという形に持っていただければありがたいと思う。それには、バラバラかも知れないが、同時進行で同じ方向へ向かっていけるようなスタートを切ってもらいたい。みんな一緒になって、こういう課題に向かっていこうというスタートになってもらえばいいと思う。

○教育長

先ほど3ページの真ん中辺の④の保育園、幼稚園の出前教室っていうのがあるが、こころのりところにもっと力を入れてほしいという願いがある。就学前の子どもたちの、0歳ぐらいから5歳、6歳ぐらいまでの間の子どもの遊び、徹底的な遊び、それから運動というか、スポーツには全然なっていないが、土台づくりの部分のところ、一貫教育の中の大切な場面だと思う。行政のほうでも、遊び場の提供をしながら、多様な遊びができるような、安心安全のもとで、移動教室のような形でやっているが、ああいうところが、この④の中に、ウエイトをかけた形で入ってくると、保護者も嬉しいし、成長の土台をつくる子どもたち自身も、多

様な経験ができるものに発展していくと思う。その辺はどういう指導者の方、スポーツ協会の人がそういうところに出向いて行ってもなかなか馴染まない。競技的な視点でやろうと思うので。その辺を対象にした子どもたちへの指導者というのはどういう人がいいんだろうとか。そういう分野の指導者の開拓も、これから大切になってくるのではないかと思う。今、駅北の子育ての複合施設の建設に向けて、遊び場、遊戯場をつくりたいが、そうなったときにそこが一つのセンター的な役割を担いながら、場所をずらしていろんな場面でそういった部分のところが豊かに体験が広がっていく形になってくると、非常に理想的な形になると思うので、その部分、ウエイトをかけたものを期待したいと思っている。

もう一つ確認したいのは、その図の中の市民、会員という言葉がある。いつでも誰でもが気楽にこういった形で参加できるものをつくり上げたいというときに、会員だと、申し込んで手続きをしなければいけないのか、市民というと、赤ちゃんからお年寄りまでの範囲になってくるが、市民、会員という意味をどう受け止めたらいいのか説明していただきたい。

○事務局

並列で書いたのがよくありませんでした。会員の下に広く市民というイメージである。教育長おっしゃられる通り、誰でもが参加していただきたい。ただ、本当に定期的にこういう活動をしていくと、保険の問題とか、場所の問題があると、会員になっていただき、その方々から会費をいただいて、その中で保険をかけたり、指導者を集めたりしながら運営していくというのは、このスポーツクラブの基本である。ただ、そうでなくても、一回だけ行って楽しんできたとか、いろんなところで楽しんできたいという市民の方々からは、無料とはならないかもしれないが、ある程度、参加料 100 円みたいなもので、市民の皆さんはそれでオッケーですというイメージでやっている。

○教育長

お試し体験をして会員になってもいいし、二、三回やって、会員にならなくてもいいと。

○市長

何らかの扉があって、出入り自由と。

○教育長

市民が一番ベースにあるということで理解した。

○教育委員

私は、あまりスポーツをしない人間だが、そういう人からすると、どこか、ここに尋ねれば、自分の住んでいる地域に一番近い、自分の都合のいい、スポーツのできる場所が見つけれられるというものになっていけば良い。全体的な構想を聞きながら、そう思った。ただそうなってくると、いろんな場所にいろんな時間帯でいろんな人を対象にしてという、多岐にわたって小さなスポーツクラブが必要になってくると思う。それと同時に、そのセンター的なものが必要になるが、そのセンター的なものは、新しく施設を造る必要はないと思うけども、そういう場所なのか、団体として、組織としてあるものなのか、どのような構想なのか。例えば、青海のプールのあるところへ行けばいつでも何かやっていてできるというような、その場所に近い人であれば、とても利用しやすい施設だと感じるが、遠ければ、そこまで行くための時間と労力が必要になってくるので、できれば自分の住んでいる地域の近いところにあってほしいというところがある。そういった組織なのか、こういう施設形としてのものが必要なのかお聞きしたい。

○事務局

確定してお答えできないが、核になるところを作らなければいけないとは思っている。今市

役所で仕事をしており、できれば今度、もう少し広くできる、例えば総合体育館とか、皆さんに見える形のものをつくりたいと思っているし、いろんなところに総合型地域スポーツクラブはできているが、大体がここの場所に来てやってください方式である。そこに行かないとできない、なかなか自分の身の回りで気軽にできないのが、今までの総合型地域スポーツクラブの特徴だが、私達糸魚川で考えているのは、自分の近くにあるものである。例えば、青海、糸魚川、能生と3地域あるが、そこに一つずつとか二つぐらいずつとか拠点を作って、例えば軽スポーツも、卓球も、バドミントンも、スポレックもできる、生涯学習センターとか能生体育館もそうで、そこでできると。それから、お年寄りの教室とか、認知症予防教室なんかも、例えば田沢公民館でやっていますよという、そういう拠点づくりをしていきたい。でも、それでも足りない。そこまで行けない方がいる。私達も出前で回っているが、そこまでも行く足がないという方もおられて、そこを私達は、この出張教室、出前教室で対応しようと思う。スタッフがそこへ出かけて行って、やる。例えば、羽生の地区集会場へ行ってお年寄りの方々に体操してくる、そういうのを地域に出て行って、やっていく。それが皆さんの一番身近になる。そういうイメージで、糸魚川の総合型地域スポーツクラブはやっていきたい。それが本当に市民の皆さんのためになる、来てください方式ではないというのは、今構想しているところである。

○教育委員

課題のところ指導者の育成が急務とありますけど、やっぱりその指導者という方々の資質というか、それがとても大切だと思っていて、部活動の地域移行に関わってくると、子どもたちに関わる指導者の、子どもたちなので生徒指導上の友達トラブルとかもあると思うので、そういったものに対してどう対応するのかというようなこともあるし、中高年の方々は、健康増進課の健康体運動教室では、その指導者はとても良くて、指導員のファンが多くいる。だから皆さん行かれる。平均年齢が大体70ぐらいだが、やることは結構ハードで、腕立て伏せしたり、腹筋したりしているが、指導者の方の熱と明るさと、その明るさがあって、やっぱり皆さん意欲的に参加されると思うと、指導者の資質というのは、とても大事だと思う。

○市長

指導者の、スポーツとか健康に関してのインストラクターとか、そういう人たちは、かなりの熱量を持っている。本当に個性豊かで魅力を持っておられて、それに惹かれて行くのが結構あるので、そういう手本みたいになって、それに近づいていくということも結構あるので、指導者は非常に大切だ。逆にその指導者を作っていくことも大事だ。クラブの方向性の中においては、指導者の育成、養成というのは大きな課題として、事業の中で明確にしていっていただき、仕事を持ちながらではなく、できれば専門的にやっていけるような指導者になれば良い。

○教育委員

スポーツというと、その競技スポーツとかイメージがつくが、例えばダンスとか、登山の、壁のクライミングとか、クライミングは特に糸魚川でも、本当の山を使ってできる場所があるくらいなので、そういったところも含めて考えていただければと思う。

○市長

我々ここに住んでいて、この大地を生かさない手はない。それは大事にいっぱい使っていただければ。

○教育長

海洋スポーツも、ウィンタースポーツも。

○市長

本当に雪が降って嫌だなど思うかもしれないが、逆に四季折々いろんなことができるという糸魚川市なので、それは大事だ。子どもたちもそうで、青海の幼稚園にある、園庭に山があって、あそこを飛び回っている子どもたち見ると、すごいと思う。怪我をするのではないかと見ているが、転んでも構いつけずに遊んでいる姿を見ると、子どもはたくましいと思う。大地をどうやって生かしていくかというのも、糸魚川は、せっかくこういう自然がいっぱいあるので。森林なり、山なり、やればよいと思うし、生かせれば良い。

(3) その他

なし。

4 閉会 (14:27)